

コード	504040203
記入日	H21.6.1

事務事業途中評価表

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	中山利朗

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	青砂ヶ浦天主堂建造物保存修理補助金
----------	-------------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 21 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	504	施策名称	伝統、文化の保存・継承と創造	項コード	5
基本事業コード	50404	基本事業名称	文化財の整備と活用	目コード	1
事務事業コード	5040402	事務事業名称	文化財保護の充実	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町文化財保護条例	

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標					
(対象1)	青砂ヶ浦天主堂	(対象指標1) 1件					
(対象2)	* * * * *	(対象指標2) * * * * *					
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
国指定重要文化財である青砂ヶ浦天主堂が経年による劣化がみられるため、補修工事を実施する。その経費を、国・県・町が補助金を支出する。	国補助5,500千円、県補助1,833千円、町補助2,533千円	* * * * *	* * * * *	* * * * *	補修件数1件÷補修すべき文化財件数1	平成21年度	
		補修件数	1件	100%	件	平成20年度	
		①	(達成率分析) 事業計画に基づき、適切に実施された。				
		②					
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)					
青砂ヶ浦天主堂を補修し、町の宝として保存していく。また、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産としても、貴重な文化資産であり保存・補修の必要性がある。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		* * * * *	* * * * *	* * * * *	補助件数÷補助すべき件数	* * * * *	
		補助件数	1件	100%		平成20年度	
		①	(達成率分析) 国・県・町の負担割合に応じて、適正に補助金を支出した。				
		②					
		(達成率分析)					

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	1	1	0	1	1					
	②										
成果指標	① 件	1	1	0	1	1					
	②										
総事業費 C (A+B)		千円	28,150	12,400	700	11,700	11,700	15,750			
直接事業費 A		千円	26,050	11,000		11,000	11,000	15,050			
人件費 B		千円	2,100	1,400	700	700	700	700			
内訳	従事職員数	人	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	13,025	5,500		5,500	5,500	7,525			
	県補助金	千円	4,341	1,833		1,833	1,833	2,508			
	起債	千円									
	その他	千円	4,343	1,834		1,834	1,834	2,509			
一般財源		千円	6,441	3,233	700	2,533	2,533	3,208			

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	町の貴重な文化財として、後世に保存していくため、必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	時代の変化に関係なく、文化財の保護活動は行わなければならない。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	国指定重要文化財の保護活動であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	まだ事業の途中であるが、確実に成果をもたらしている。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	計画どおり行われているので、余地はない。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	劣化が進み、良好な保存状態を保てない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	● できる ● できない	理由	類似事業はない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	文化財専門業者により、適切な設計・監理が行われているので、削減できない。
	人件費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	必要最低限の人数で実施したので、削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	費用負担については、条例に基づき、適正に行われた。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	10年、20年先を見据えた改修計画を作成することで、有効性を高めることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおりに
		有効性	教会群の世界遺産登録と連動して、また国の重要文化財として早期改修を図る必要がある。
		効率性	補助金の交付については審査の上、適正な執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。